

## 教育実践研究科 2026 年度 4 月生入試 過去問と評価基準

## 【小論文試験】

アドミッション・ポリシーに関する問題、教育実践に関する問題のどちらかを選択し、回答する。

## ◆過去問（2026 年 3 月実施）

## 【問題（アドミッション・ポリシー）】

**\*本問題は、所属する機関等において授業や研修等を担当している受験生を想定しています。**

星槎大学大学院教育実践研究科のアドミッション・ポリシーにおいて「教育の諸課題を適確に理解して対応し、また学習者の特性を理解したうえで指導できるようになることを目指す」と記されています。そのうち、「学習者の特性を理解したうえで指導できるようになること」に関して、以下の【設問】にすべて答えてください。

【設問】 \*（ ）の文字数は目安です。

(1)あなたが所属する機関等において担当している授業や研修等を一つ取り上げ、①担当している授業や研修の内容、②「学習者の特性を理解したうえで指導できるようになること」の面であなたが「抱えている課題」について、簡潔に説明してください。(200 字程度)

(2) (1)で取り上げた「抱えている課題」に関わる「研究動向」について2点以上の文献（ただし、学術論文を1点以上含む）を取り上げ、適正な方法で引用しながら説明してください。(1,000～1,400 字程度)

(3) (1)で取り上げた「抱えている課題」についてどのように解決していくべきか、(2)で説明した「研究動向」を踏まえつつ、具体的な方法を含めて、あなたの考えを論じてください。(400 字程度)

## 【問題（教育実践）】

成績は優秀だが、人間関係を上手に構築できない小学校3年生の男児児童がいます。原因と支援方法について具体的に1,600 字程度で述べなさい。

以下の4つの観点について4段階で評価する。

観点Ⅰ：出題意図の把握

観点Ⅱ：知識・理解

観点Ⅲ：自身の考え方の提示

観点Ⅳ：論述能力

### 【面接試験】

以下の観点について4段階で評価する。

観点Ⅰ：アドミッション・ポリシー1つ目（AP1）

「継続的な学修を行い、教育に関連する専門職として職務を遂行するための心身の自己管理能力を有する者であること」

観点Ⅱ：アドミッション・ポリシー2つ目（AP2）

「修了後に、教育の専門職者として活動するために求められる知識や技能等を修得することに対する明確な目的意識を有している者であること」

観点Ⅲ：アドミッション・ポリシー3つ目（AP3）

「教育に関わり生涯にわたり自己研鑽を積む意欲を持つ者であること」

観点Ⅳ：書類の総合評価

- ・ 明確な志望動機があること（様式2）
- ・ 活動実績が示されていること（様式3）
- ・ 研究計画と将来展望が明確であること（様式4）

### 【合否判定】

小論文試験と面接試験の評価に基づき、総合的に判断する。